

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月12日現在

機関番号：12301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2011

課題番号：22652006

研究課題名（和文）戦時期メディアにおける「喇嘛教」表象に関する研究

研究課題名（英文） Presentation of Lamaism in Japanese Wartime Media

研究代表者

高本 康子 (KOMOTO YASUKO)

群馬大学・国際教育・研究センター・非常勤教員

研究者番号：90431543

研究成果の概要（和文）：200字。

本研究における成果としては以下3点が挙げられる。①資料の発見と蓄積。予定の資料収集をほぼ完了し、予定になかった未公開の貴重資料多数を入手した。②資料調査・情報交換に必要な人脈の獲得。関係者各個人その他、関係諸団体との連携形成に成功し、今後の研究展開の基礎を確保した。上記未公開資料の入手も、この関係各位の協力による。③成果の発信。学会等における発表に加え、新聞連載等、一般への研究成果還元を行った。

研究成果の概要（英文）：

This study, focused on Japanese presentation of Lamaism in wartime media, cast some useful light on the state of Japanese contacts with different cultures in modern Japan.

The research results are as follows:

1. Examination and organization of materials relating to Lamaism, especially in Mongolia and Manchuria.
2. Formation and maintenance of several links to access information and materials basically not-open to the public.
3. Presentation of research results not only within academia but also to the public, as a series of articles in newspapers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	0	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,400,000	330,000	2,730,000

研究分野：東アジア近代史

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：喇嘛教、満州、蒙疆、戦時、画像、表象、ツーリズム、教科書

1. 研究開始当初の背景

「喇嘛教」、すなわちチベット仏教について

は、国内・国外ともに先行研究の蓄積がある。また近年、第二次世界大戦期の日本当局による宣撫工作としての「喇嘛教」工作についても、調査研究が進められている。ただし、「喇嘛教」と日本人の関わりについては、日本における研究史以外に言及されることはまれであった。特に「喇嘛教」の負のイメージについては、いわゆるその「偏り」が度々指摘されてきており、現代ではそのため、「喇嘛教」という故障の使用を避ける場合も多く見られる。しかしそのようなイメージが持つ背景や歴史的経緯に、学的関心はあまり持たれてこなかった。

海外においてはすでに1990年以降、小説や映画等を対象に、特に欧米における「シャングリラ神話」もしくは「チベット神話」などと呼称されるものについて、その形成と変遷の過程を考察した論考が、次々に書かれている。

しかし日本国内のチベット研究において日本人と「喇嘛教」の関係は、日本におけるチベット仏教研究史と、日本人入蔵の詳細を調査したものの2種において言及されるにすぎなかった。これらの研究が考察対象とした日本人は、専門の研究者、チベット仏教に関心をもった仏教者、もしくはチベットの文物を直接見聞するという体験をした数人の日本人の中の、更に限られた一部にすぎない。

本研究は、近代日本における日本人の海外交流の一環として、先行研究の蓄積の薄い、一般の日本人とチベットとの関わりに特に注目し、「喇嘛教」情報との接触を、「喇嘛教」との関わりの一つの様態ととらえ、「喇嘛教像」という新たな視点からの考察を試みるものである。その第一段階として本研究では、第二次世界大戦期の日本における基礎的な資料の調査分析を、特に画像資料に注目して行った。

第二次世界大戦期を取り上げる理由は、「喇嘛教」像の形成過程における重要な画期が第二次世界大戦期であると考えられることによる。本研究代表者はすでに、近代日本におけるチベット像の形成と展開について研究を行ってきており（高本康子『近代日本におけるチベット像の形成と展開』2010年）、当該期への注目は、これらの研究で得た知見によるものである。

また、画像資料を選択した理由は、大衆文化において画像情報が持つ、情報理解の容易さ、受け手に与える印象の大きさという重要性に注目されることにある。すでに本研究代表者は以上の重要性をふまえ、明治期のチベット認識形成において、画像情報が果たした役割についていくつかの考察を行ってきた。

## 2. 研究の目的

近代日本における異文化表象のありよう

を、第二次世界大戦期の画像情報における「喇嘛教」に注目して明らかにするため、基礎的な資料の調査分析を行う。

「戦時期」日本を取り上げるにあたって本研究では、海外情報の発信という点において、当該期の特徴を見ることができるとして、「宣伝」の中の「喇嘛教」に焦点を設定した。この視点から、次項に述べる①～④のメディアを選択し、調査を行った。

## 3. 研究の方法

本研究においては、日中十五年戦争開戦前後から第二次世界大戦終戦まで、すなわち1930年代初頭から1945年までの約15年間について、以下①～④の各種メディアにおける「喇嘛教」関連画像資料の集積と整理・分析を行った。

### ① ニュース映画。

通時的に追跡できる資料として日本映画社を中心とするニュース映画を調査した。

### ② 旅行雑誌・パンフレット。

通時的に追跡が可能な資料として、1912年以降日本における主要な旅行代理店として事業を展開してきた日本交通公社の旅行雑誌類（『旅』、『観光東亜』）を軸として資料の調査・収集を行った。更に、満鉄発行のリーフレット類、写真集、絵はがき類、見聞記・旅行記も可能な限り収集した。

### ③ 仏教系メディア、大陸情報の専門雑誌を含む雑誌・新聞。

調査収集を行ったのは以下2種である。第一に、宗派の機関誌などの仏教系メディア。特に「満蒙」地域において対「喇嘛教」活動に積極的であった真言宗、浄土真宗、曹洞宗、浄土宗に重点をおいて調査収集を行った。第二に、同地域において教育・医療活動を行い、日本の宣撫工作の一端を担う時期もあった善隣協会によって発行された各種出版物。これには雑誌などの定期刊行物、一般向けの啓蒙書、旅行記など様々なものが含まれるが、個人所有の非公開資料を含め、可能な限り幅広く調査収集を進めた。

### ④ 初等・中等教育において使用される教材。教科書に加え、地図教材、教師用指導書等も含めて調査収集を進めた。

以上①②を分析の主軸対象とし、その背景として③④の資料を使用した。

## 4. 研究成果

本研究における成果としては以下3点が挙げられる。

### ① 資料の発見と蓄積。

収集予定の画像資料（ニュース映画、初等・中等教育教科書、新聞・雑誌等所載の画像）は、収集をほぼ完了した。

ニュース映画については、日本映画社を中

心とするニュース映画を軸とし、その他読売新聞社提供による「読売ニュース」、読売国際ニュース、朝日新聞社提供による「朝日映画週報」、「朝日世界ニュース」、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社による「東日大毎世界ニュース」、日本映画社による短編映画、いわゆる国策映画とよばれるドキュメンタリー等の映像資料を検索、調査し、入手可能なものを収集した。

旅行雑誌類については、日本交通公社発行の『旅』、『観光東亜』を中心に、国内・国外発行のパンフレット類を含め調査、画像資料を複写・収集した。

一般雑誌・新聞類については、『読売新聞』、『東京日日新聞』、『時事新報』、『東京朝日新聞』、『万朝報』、『大阪朝日新聞』、『大阪毎日新聞』各紙に関して、明治から太平洋戦争終戦までにおける「喇嘛教」関連記事の収集を完了した。更に、善隣協会関連の出版物を、定期刊行物であった『善隣協会調査月報』、『蒙古』、『蒙古学』、『蒙古学報』について検索し、資料を複写・収集した。また同会関係者の見聞記・回想記等についても所在調査を行い、複写・収集した。その他、大陸情報の専門雑誌を複数検索、同様に資料を複写・収集した。

初等・中等教育教科書については、教科書、地図類その他副教材実物を、東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫、国立教育政策研究所教育情報研究センター教育図書館において調査し、関係画像を複写・収集した。

その他、収集予定にはなかったが、満州国行政当局による宗教関係調査の報告書等、現在までに知られていなかった資料、および、当事者の草稿や書簡、日記、現地の限定された範囲で出版・配布された印刷物等、個人所有にかかる未公開資料を多数入手した。例えば、その一例は満州国国務院民政部による宗教調査の報告書である。特に満州国成立前後からは、満鉄をはじめとする各機関が、満州、モンゴル、青海地方等各地で各種の調査を実施しており、近年これらに関する研究成果が次々に発表されている。これらの諸調査には、「喇嘛教」に関するものも少なくない。しかし「喇嘛教」に関しては、実施内容も記録の初座も不明である場合がほとんどである。民政部の調査についても、記録は出版された痕跡があり、今回はその一部を入手することができたが、調査の全体像は未だ不明である。この調査事業の詳細を明らかにすることには、日本におけるチベット仏教研究史における新たな側面を提示できる可能性が見込めるものであり、今回の資料発掘はその第一歩として大きな意味を持つと考えられる。

② 資料調査、情報交換に必要な人脈の獲得。戦後の混乱期を経ているという事情から、本

研究においては、関係者への聞き取りが不可欠なものとなっており、そのアクセスには時間をかけた信頼関係の醸成が必須である。本研究では、人的ネットワークの確保と、関係者との信頼関係形成に最大限努力し、現在のところ、関係者各個人の他、関係諸団体との連携を確保した。上記未公開資料の入手は、これら関係各位の全面的な協力によるものである。

### ③ 成果の発信。

学会での研究発表、著作・論文の出版等（本報告書項目5.参照）に加え、一般への成果の還元として以下を行った。まず、a. 関係者の評伝を執筆し、新聞連載した（「入蔵者の肖像」『秋田魁新報』全51回、2010年4月-2011年4月。「近代の肖像」青木文教編全4回、多田等観編全3回、『中外日報』2012年）。このうち、多田等観については、評伝をまとめ、出版した（『チベット学問僧として生きた日本人』芙蓉書房出版、2012年）。青木文教についても次年度、評伝を出版する予定である。b. 未公開資料の翻刻出版。入手した未公開資料のうち、関係者の了解が得られたもの6点について、出版に向け翻刻作業中である。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ① 高本康子「戦時下の「喇嘛教」表象—芥川光蔵「秘境熱河」を中心に—」『論集』、印度学宗教学会機関誌、査読有、第38号、2012年、掲載決定
- ② 高本康子「真言宗と「喇嘛教」—田中清純の活動を中心に—」『群馬大学国際教育・研究センター論集』、群馬大学国際教育・研究センター、査読有、第11号、2012年、印刷中
- ③ 高本康子「日本人入蔵僧によるチベット写真資料—青木文教、多田等観、河口慧海を中心に—」『印度学仏教学研究』、日本印度学仏教学会機関誌、査読有、第60巻、2011年、541-546頁
- ④ 高本康子「戦時期日本の「喇嘛教」施策—国立民族学博物館青木文教師アーカイブを中心に—」『論集』、印度学宗教学会機関誌、査読有、第37号、2011年、86-92頁
- ⑤ 高本康子「昭和日本と「喇嘛教」—国立民族学博物館青木文教資料に見る戦時期「喇嘛教」施策—」『印度学仏教学研究』、日本印度学仏教学会機関誌、査読有、第59巻、2010年、504-507頁

〔学会発表〕（計6件）

- ① 高本康子「戦時期日本の「喇嘛教」工作」北海道大学スラブ研究センター心学術領域研究第4班研究会、2012年3月21日、北海道大学（札幌）
- ② 高本康子「多田等観関連資料の現在」東北大学東北アジア研究センターシンポジウム「聖典とチベット」、2012年2月19日、東北大学（仙台）
- ③ 高本康子「真言宗と「喇嘛教」」東北大学インド・チベット資料研究会ワークショップ、2012年2月18日、東北大学（仙台）
- ④ 高本康子「日本人入蔵僧によるチベット写真資料—青木文教、多田等観、河口慧海を中心に—」日本印度学仏教学会第62回学術大会、2011年9月7日、立正大学（東京）
- ⑤ 高本康子「昭和日本と「喇嘛教」—国立民族学博物館青木文教資料に見る戦時期「喇嘛教」施策—」日本印度学仏教学会第61回学術大会、2010年9月11日、龍谷大学（京都）
- ⑥ 高本康子「日本仏教が見たチベット仏教—河口慧海と青木文教を中心に—」印度学宗教学会第53回学術大会、2010年5月29日、大阪国際大学（大阪）

〔図書〕（計3件）

- ① 高本康子『チベット学問僧として生きた日本人』芙蓉書房出版、2012年、173頁
- ② 白須浄真編、高本康子他執筆『大谷光瑞と国際政治社会』勉誠出版、2011年、385頁（執筆部分161-185、299-324頁）
- ③ 柴田幹夫編、高本康子他執筆『大谷光瑞とアジア』勉誠出版、2010年、580頁（執筆部分225-247頁）

〔その他〕

ホームページ等

- ① 高本康子「入蔵者の肖像」『秋田魁新報』連載、全51回、2010年4月-2011年4月
- ② 高本康子「近代の肖像 青木文教編」『中外日報』連載、全4回、2011年10月6、13、18、20日付
- ③ 高本康子「近代の肖像 多田等観編」『中外日報』連載、全3回、2011年11月8、10、15日付

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高本 康子 (KOMOTO YASUKO)  
 群馬大学・国際教育・研究センター・非常勤教員  
 研究者番号：90431543

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：